

令和3年度第4回宮崎県社会教育委員会議

【議事録】

令和4年2月4日（金）

県防災庁舎52号室からのオンライン開催

【生涯学習の視点に立った社会教育の在り方について】

『宮崎県教育振興基本計画 施策3 読書県づくりの推進』についての意見聴取

委員	読書県づくりの推進について御質問や御意見はありませんか。
委員	読書県づくりの推進について、読書の定義として、紙媒体を主体とするのか、それともデジタル書籍も含めて考えるのかを教えてくださいたいです。
事務局	調査については、紙媒体とデジタル書籍を対象としています。また、生涯読書推進計画においてもデジタル書籍も読書に含めて計画を立てています。
委員	読書県づくりの推進の説明資料の中で、読書量のデータが出ていますが、年間を通して全く読まない人の割合が増えています。県としてその原因をどのように捉えているのかを教えてくださいたいです。
事務局	SNS等によって情報を得ている人が増えていることが要因ではないかと考えています。
委員	図書館を利用する人だけでなく、書店で本を購入する人もいるため、カウントが難しいと思うのですが、冊数や時間など、何をもちて読書県とするのか、指標等があれば教えてくださいたいです。また、読書バリアフリー法が成立して、オーディオブック等も出てきていますが、忙しい人にとっては音を流しても読書として考えてよいのかを伺いたいです。
事務局	指標については、子どもも大人も生涯を通じて読書に親しむことを読書県として捉えていますので、冊数や時間などの規定はしていません。ただ、読書の量を目に見える形で評価するために、宮崎県県民意識調査の項目としては時間で調査しています。
委員	指標については、取組の効果を評価していくためにも大切な視点だと思います。また、事務局としては、県民の半数がほとんど読まない状況を危惧しているようですので、全国的な調査結果があると比較ができるのではないかと考えます。
委員	本を手に取りやすい環境をいかに整備するかと、本を読もうという動機付けをどうするかとの2点が大事だと思います。1 B a g 1 B o o kについては、すぐに本を出せる環境を作りましょうということかと思いますが、古典は無料でダウンロードできるアプリもありますので、スマートフォンに本を入れておくなど、いつでもスマートフォンに漱石をというようなアプローチがあってもよいのかと思います。最近のニュースですが、〇〇市の図書館が電子書籍の取組を始めています。2週間で勝手に落ちるので返却の手続きもありませんし、図書館に行かなくても手軽に本が借りられるというメリットもあります。その他、スマホで本を読むメリットとして、視覚障がい者の方が文字を拡大して読んだり、音声で聞いたりすることもできます。そもそも、鞆を持っていなくてもスマートフォンは持っているという人もいて、何冊も持ち運べることになります。特に、若い人にはライトノベル等、スマートフォンで小説を読む人も多いので、そういった呼びかけ、アプローチがあってもよいと思いますし、〇〇市で電子図書館を始めたなら追い風になるのではないかと思います。また、東京で勤めていた頃は、通勤で本を読む機会がありましたが、宮崎の場合は車で移動する機会が多いなど、移動時間読む機会が少ないので、電子図書のアプローチも考えたらよいと思います。

委員	<p>環境整備や現状をもとに御意見をいただいておりますが、ここからは、読書活動の推進、紙媒体だけでなく、電子書籍等を含めて、18歳以上の県民が全く読まない、あるいは30分未満という状況を受けてどうすればよいかについて御意見をいただければと思います。</p>
	<p>まず、県民の意識をどう向上させるかについて御意見ください。</p>
委員	<p>以前、知り合いに、県が読書の推進に力を入れていることを知っているかを聞いたことがあります。全く知らないという回答でした。県としては、読書県づくりに力を入れています。意外と県民に周知されていない現状があります。1 B a g 1 B o o k もとてもよい取組ですので、ロゴの活用やしおり、ポスターの配布等、宮崎県が読書県づくりに力を入れていることを県民にアピールできるように啓発・広報がさらに行えるとよいと思います。また、電子書籍の図書館についても、ぜひ進めたいと思います。今、スマートフォンを持っている人は多くなりましたが、マンガを読んだり、ゲームをしたりしている人が多く、電子書籍を読んでいる人は少ないように感じています。そして、文字で読む電子書籍だけでなく、音で聴く電子書籍等の活用も図れるとよいと思ったところです。</p>
委員	<p>県民にもっと周知して、本に親しむ気持ちを醸成していくことが大切ということでしょうか。また、電子書籍については、障がいをもつ方も読書に親しむための取組にもつながってくると思われます。</p>
委員	<p>第3回の報告にもあったコミュニティ・スクールの委員になっていまして、保護者や先生等を対象とした学校運営に関する調査報告では、読書活動が低下しているという指摘が挙がっていました。また、メディア依存と言いますか、ゲームとか YouTube 等の時間が増えている状況が見られると同時に、学習能力が低下しているという指摘もありました。このことから、すべてが繋がっていると感じたところです。メディアの時間が増えた分、読書活動が減って、学習能力が低下していると考えれば、一体化して改善することができると思います。メディア時間を減らし、読書の時間を増やすことで学習能力が高くなるということなのかと思います。以前提案したことで、森の幼稚園の活動の中で、季節に合った絵本の読み聞かせによる子どもへの効果は大きいと思っています。幼児教育の段階で本に親しむ習慣付けができれば、小学生、中学生、そして大人になってもそういった傾向につながると考えています。</p>
委員	<p>以前見た雑誌で、〇〇の創業者である〇〇氏が、本屋から本を抱えている姿をスクープされていたのですが、その本が「忙中本あり」だったかと記憶しています。「忙中閑あり」ではなく、「忙中本あり」で、〇〇氏は、月に100冊の本に目を通すとのことでした。説明資料の調査結果にもありますが、読む人は読む、読まない人は全く読まないという状況は昔からあるように思います。ただ、私は読書が好きなのですが、それは、先生から本の選び方や親しみやすさを教えてもらったことがきっかけになっていると思います。全く本を読まない人もいますが、テレビばかり見ていた子が本を読むようになったこともありました。そういったことから考えると、学校で小さいときから本に親しめるような取組を行っていくことが大切だと思います。</p>
委員	<p>本の魅力について、幼少時からアプローチしていただきたいという御提案だったかと思います。「忙中本あり」というキャッチフレーズ等から県民にアピールしていくのもよいと考えました。</p>
委員	<p>以前外国に行ったときに、外国の方が鞆の中から本を取り出して読む姿を見かけ</p>

	<p>て、外国の人たちはたくさん本を読むのだなと感じたことを思い出しました。1日7分読書することでストレスが軽減されることを伺い、読書をしたらこうしたメリットがあるといったことを積極的に伝えていくことで、読書をする人も増えるのではないかと考えました。2月2日の南日本新聞の「時の人」の欄に、〇〇村に初めて図書館を作った人の記事が掲載されていました。書店のない〇〇村で、観光協会に書店の役割を担ってもらい、図書館の装備も地元の方が請け負うことで、雇用も生み出せるということで、このような手立てもあることを知りました。また、〇〇委員からありました、本を手に取りやすい環境にすることが大切という意見に同感です。公立図書館の方が、移動図書館でたくさん本を届けてくれます。子どもたちの中には公立図書館に行きたくても行けない子どももいます。公立図書館が本を学校に運んでくれるのはよい取組と思います。電子図書館については、〇〇市の〇〇小学校は、図書館に電子図書をそろえようとしていると伺いました。学校の中でもそういった取組をしている学校が出てきているようです。また、〇〇市では、読書サポーターの方がおり、専門家の方が図書館の整備をしたり、本の紹介や研修をしたりしてもらえるので学校としてはありがたいと感じています。それから、第3回でも出ましたが、読書についても、地域間に格差があるのではないかと感じますので、こういった格差がなくなるような取組が必要だと思います。高齢者等、図書館に行けない方もいると思いますので、高齢者施設や病院、公民館等に本を届けるような仕組みがあってもよいのではないかと思います。</p>
委員	<p>外国の街角に本が置いてあり、誰でも借りている様子を見かけたことがあります。今は貧困等の問題もあるので、公民館や図書館以外に、身近に本を借りられる環境を作ることも読書県につながると思います。</p>
委員	<p>読書県づくりに関する資料の調査について、調査数、男女の比率や年齢構成、地域のバランス等を教えていただきたいと思います。読書については、小さい頃の習慣で、その積み重ねで、年を追うごとに本に親しむようになっていくと思います。〇〇市の社会教育委員をしまして、先日、市の読書活動推進計画をもらいましたが、〇〇市は改訂が進んでいて、〇〇市は作った当時のものがそのままの状態でした。このことから市町村によって取組に差があるのではないかと思います。読書活動推進計画は、基本になるものと思います。このことから幼児教育から学校教育を含めて、各市町村で推進できるようにしていくことが大切だと考えます。</p>
委員	<p>調査結果については、もっと細かな分析ができれば、各市町村でのアプローチが可能になるとの御意見かと思しますので、参考にさせていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>調査については、総合政策課が行っています。調査の対象数は3,500人で有効回答数は1,485通、回答率は42%となっています。男女比、年代別の数も県のホームページで公表されていますが、市町村ごとの数字については公表されていません。</p> <p>読書活動推進計画については、大切と考えます。改訂または未策定の市町村もあり、市町村によって改訂・策定について差があることは確かです。読書県づくりを目指していく上で、読書活動推進計画の整備は必要であり、今後、市町村と連携して取り組んでいきたいと思います。</p> <p>また、先ほど〇〇委員からのバリアフリーに関する御意見・御質問についての回答と、電子図書の現状について報告をします。オーディオブックについては、耳で聞く読書はCDになりますが、県立図書館に置いており、数は限られていますが、どなた</p>

	<p>でも利用が可能です。市町村立図書館も置いている館があります。それとは別に、視覚障がい者を対象としたCDのような形式にした電子図書があり、特別な機械が必要にはなりますが、読むことが困難な方を対象に貸出しを行っています。また、視聴覚障がい者のためのサピエ図書館を利用することもできます。それから、図書館まで行くことができない方を対象に、障がいをもった方といった条件はありますが、御自宅に届ける郵送サービスや、有料になりますが、どなたでも利用可能な郵送サービスもあります。電子図書館については、コロナ禍になってスタートした電子図書館が全国に多くあります。宮崎県内に導入された館はありません。電子図書館のとしては、文字を大きくすることができたり、返却・貸出しがスムーズに行え、多くの人に読んでもらうことができたり等のメリットはありますが、書籍の2倍から3倍と高価であり、導入に費用がかかることや電子書籍にも種類があるため、バリアフリーに対応できないものがあるなどのデメリットもあります。県立図書館では、電子書籍の導入について、調査している段階です。学校図書館については、県内のいくつかの学校で電子書籍が導入されています。ただ、学校図書館の電子書籍と公共の図書館の電子書籍は違ったものになり、現在のタイトル数はそれほど多くはなく、電子書籍はこれからという状況です。これまでの御意見から、いかに県民に周知されていないかが伺えたので、今後、広報が必要と感じているところです。</p>
委員	<p>それでは、ここからは18歳以上へのアプローチや、地域、そして企業を含めて読書を推進していく上で、どのようなアプローチがあるか、あるいはどのようなことが大事かについて御意見ください。</p>
委員	<p>18歳以上ではなく、高校生以上という括りでの意見になりますが、現在、高校ではスマートフォンの持込みを認める方向になっていると思います。そうしたとき、通学、通勤の際、バスや電車の中で、ゲームやYouTubeではなく、電子書籍を読むことを啓発してはどうかと考えます。東京に住んでいた際には、通勤で読書することが多くありました。宮崎に戻ってきてからは、そうした時間はなくなりましたが、現に通学や通勤でバスや電車を利用している人も多いと思いますので、そうした方たちを対象にしたアプローチがあってもよいのではないのでしょうか。企業によっては自家用車での通勤ではなく、公共交通機関の利用を促しているところもあるようです。中学生以下は、紙媒体の書籍が主になるとと思いますので、紙媒体の書籍による読書の啓発活動、幼稚園児等については、言葉に対する入口ともなる本の読み聞かせが大切であり、〇〇委員の御意見にあった自然の中で五感を刺激することも有効ではないかと考えます。</p>
委員	<p>企業とのタイアップについてですが、現在、子ども食堂を支援している企業も多いと伺っています。子どもや青少年が集まる子ども食堂や寺子屋などに本コーナーを設置し、企業などから本を寄贈してもらう取組があるとよいのではないかと思います。幼稚園児や小中高生は、読み聞かせや学校で朝読など、本にふれる機会が多いと思いますが、学校を卒業して就職し、仕事が忙しくなると、なかなか本にふれる機会がなくなると思います。そこで、職場の自販機コーナーなど、企業に本コーナーを設置してもらう取組も面白いのではないかと考えます。</p>
委員	<p>社会教育委員会議で3号館に伺うと、1階のロビーに本コーナーが設置してあるかと思えます。なかなか自分の目には留まらないような本が置いてあるので、題名を見るだけでも刺激を受けています。こうした取組を、いろいろな世代が訪れる市町村役</p>

事務局	<p>場の待合室・コーナーや乳幼児検診で利用する健康管理センター等の施設に置くなど、行政から始めてみるのもよいのではないかと思います。</p> <p>当課で管理している県庁文庫について説明をしますと、現在、県庁文庫は3箇所あり、本はすべて県庁職員からの寄贈によるものです。県庁文庫は、県庁職員に限らず、どなたでも借りることができます。1 B a g 1 B o o kについても説明させていただくと、現在、しおりやポスターによるPRを始めたところですので、委員の皆様にも御協力いただければと思います。</p>
委員	<p>さきほど〇〇委員からありましたが、子ども食堂やふれあい食堂等、本を読むことだけが目的ではなく、居場所に本があると読む気になるように感じたところです。私自身としては、本は嫌いではありませんが、なかなかじっくりと本を読む時間がないというのが現状です。そうした中でも、本屋大賞等が発表される時になると本を読みたい気持ちになります。啓発の取組の中で、私の本を番組で紹介しているということでしたが、それだと本が限定的になるので、半年に1回、あるいは年に1回でもよいので、県で設けたテーマに沿って選んだ本を紹介するなどのキャンペーンを公共の図書館等で行ってはどうかと考えます。話題性も高くなりますし、普段本を読まない人にとっては、どの本を手にとったらよいかも分からないので、本を手に取りやすくなるのではないかと思います。</p>
委員	<p>皆さんの御意見や事務局の説明を伺って、オーディオブックや電子書籍等のことがよく分かり、とても勉強になりました。今回の会議に臨むにあたって、いろいろ調べてみたのですが、青少年教育振興機構の調査によると、子どものときの読書活動が大人になってどのような効果があるかということについて、未来志向型、あるいは社会性の意識が高くなっているという結果に表れているようです。また、子どもの頃の読み聞かせと大人になっての読書量は比例しているということでした。〇〇市の企業が、今回、市に3000万円、これまでだと9100万円の学校図書を寄付しているということでしたが、読書に対する理解があるからこそだと思うので、私自身も読書への認識を改めなければと感じたところです。今、本を読みましようというところに視点を置いていると思いますが、本を読むことの楽しさや本を読むことが人生をいかに豊かにするのかということをもっとアピールすることが大切ではないかと考えます。それから、社会人や企業へのアプローチについてですが、現在、1日30分間の読書の時間を設けていたり、プレゼンで啓発したりしている等、読書優良企業として顕彰するような取組を行っているのかを教えてくださいたいです。</p>
事務局	<p>過去に〇〇銀行の店舗に県立図書館の本を置かせてもらい、大変好評だった取組がありました。また、病院にも置かせていただいたことはありましたが、長続きはしませんでした。こうした取組を改めて行ってもよいかと考えているところです。企業についてですが、当課としては、現在のところ、企業における読書活動については把握していません。ただ本県には、アシスト企業という制度もあり、教育に対して理解のある企業も多いので、今後、読書活動への取組について働きかけていきたいと考えています。</p>
委員	<p>大人になってから読書を啓発していくことは難しいと考えられるので、できるところから始めるとよいと思います。〇〇委員から御紹介のあった森の幼稚園についてですが、その効果を伺いまして、私共の施設でも幼児教育に力を入れており、たくさん利用がありますので、取組について調べてみました。20年ほど前になりますが、</p>

委員	<p>国立の施設での取組として、活動と読み聞かせを絡めた取組が行われていたようです。現在は話題にはなっていませんが、私共の施設では、ストーリーと活動をリンクさせた取組を検討しているところです。</p> <p>今回は、読書活動の推進について、皆さんが感じていることを具体的に伺えたように思います。その他、御意見や御質問等ありましたら、事務局に御連絡ください。ありがとうございました。</p>
----	--